

氏名 片山 明
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 7095 号
学位授与の日付 2024 年 9 月 25 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Effect of Recipient Age on Perioperative Complications after Pediatric Liver Transplantation: A Single-center Retrospective Study
(小児肝移植におけるレシピエントの年齢が周術期合併症に及ぼす影響：単施設後ろ向き研究)

論文審査委員 教授 成瀬恵治 教授 大塚基之 准教授 松井裕輔

学位論文内容の要旨

小児肝移植において、レシピエントの年齢や体重が小さいことは術後の高い死亡率やグラフト機能不全のリスク因子であることが知られている。一方で、グラフト体重比は術後のグラフト機能に関連した重要な因子であり、体重が小さい方がより大きなグラフト体重比が得られる。そこで我々は年齢と術後重度合併症の関連を調べるために単施設の後ろ向き研究を行った。42例の患者を1歳未満の乳児群と1歳以上15歳以下の非乳児群に分けた。主要評価項目を Clavien-Dindo 分類グレードⅢ以上(C-D \geq Ⅲ)の発生とした。C-D \geq Ⅲの発生率は乳児群と比較して非乳児群で有意に高かった(46.2 vs. 12.5% : オッズ比 6.00, 95%信頼区間 1.13-31.88, p=0.03)。多変量解析を行ったところ、グラフト体重比は C-D \geq Ⅲの発生と独立した関連を示したが(ハザード比 0.62, 95%信頼区間 0.40-0.95, p=0.03)、乳児であることは独立した関連を示さなかった(ハザード比 0.84, 95%信頼区間 0.35-1.98, p=0.68)。

論文審査結果の要旨

小児肝移植において、レシピエントの年齢や体重が小さいことは術後の高い死亡率やグラフト機能不全のリスク因子であることが知られている。一方で、グラフト体重比は術後のグラフト機能に関連した重要な因子であり、体重が小さい方がより大きなグラフト体重比が得られる。そこで我々は年齢と術後重度合併症の関連を調べるために単施設の後ろ向き研究を行った。42例の患者を1歳未満の乳児群と1歳以上15歳以下の非乳児群に分けた。主要評価項目を Clavien-Dindo 分類グレードⅢ以上(C-D \geq Ⅲ)の発生とした。C-D \geq Ⅲの発生率は乳児群と比較して非乳児群で有意に高かった(46.2 vs. 12.5% : オッズ比 6.00, 95%信頼区間 1.13-31.88, p=0.03)。多変量解析を行ったところ、グラフト体重比は C-D \geq Ⅲの発生と独立した関連を示したが(ハザード比 0.62, 95%信頼区間 0.40-0.95, p=0.03)、乳児であることを示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。